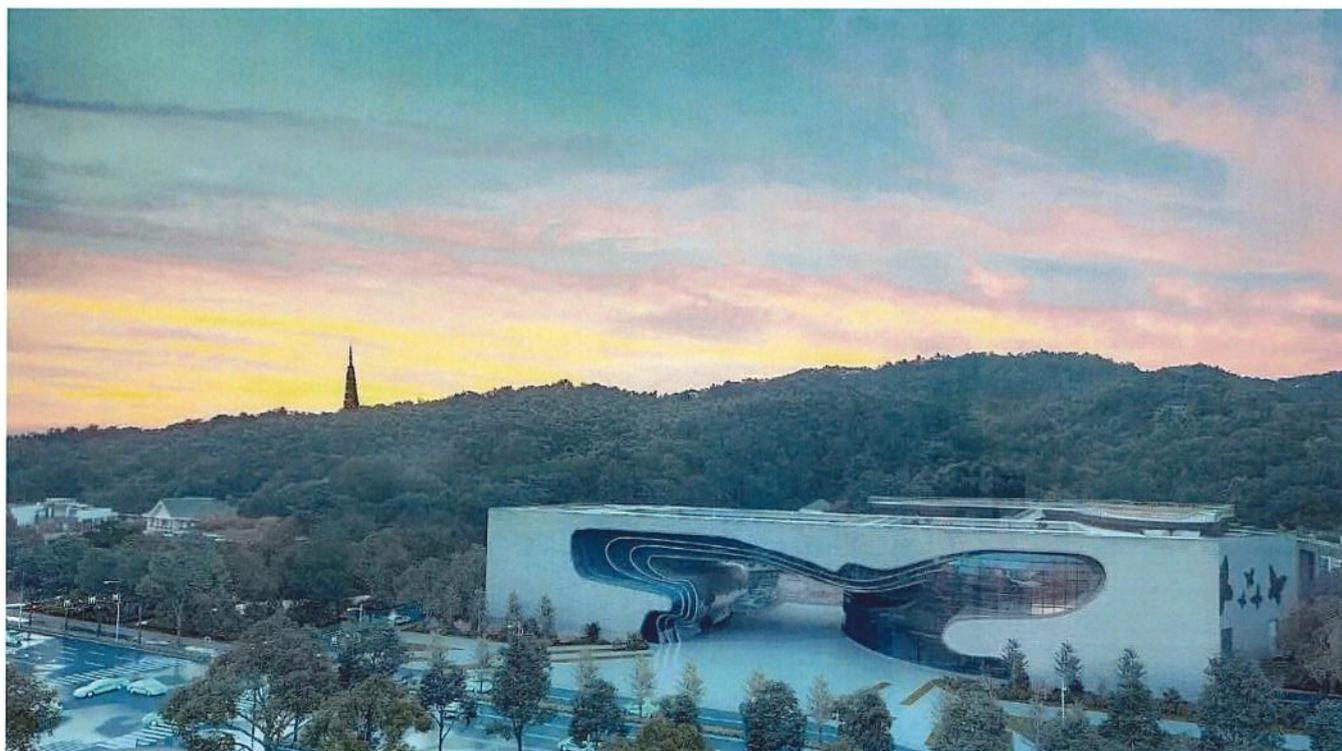


静岡県日中友好協議会

No. 119

# NEWS LETTER

2020. 7



## 視窓 斬新なデザイン / 小百花越劇場

独特で美しい外観を見せるこの近代的な建物は、台湾の有名な建築家・李祖原が設計を担当した、2007年10月竣工の杭州文化芸術施設「小百花越劇場」です。建築面積は約2.5万平方メートル、中国の伝統演劇である『越劇』を上演する3つの劇場、演劇博物館、喫茶店、花屋などで構成されています。

建物の特徴は、「蝶」のデザインが多用されていることです。蝶が羽を広げたような形をした正面の外壁や、蝶の形をした窓や屋上の芝生エリアなどがあり、角度によって、様々な蝶を見つけることができます。

「蝶」は、中国の自然を表しており、また、中国の四大民間説話『梁山伯と祝英台(梁祝)』の化蝶昇華の場面にも、イメージとして登場する、伝統文化の象徴的なモチーフです。夜には建物がライトアップされ、世界最大級の光る蝶を見ることができます。

## 特集 互いにマスクなど支援物資を提供し、互いの友情を紡ぐ

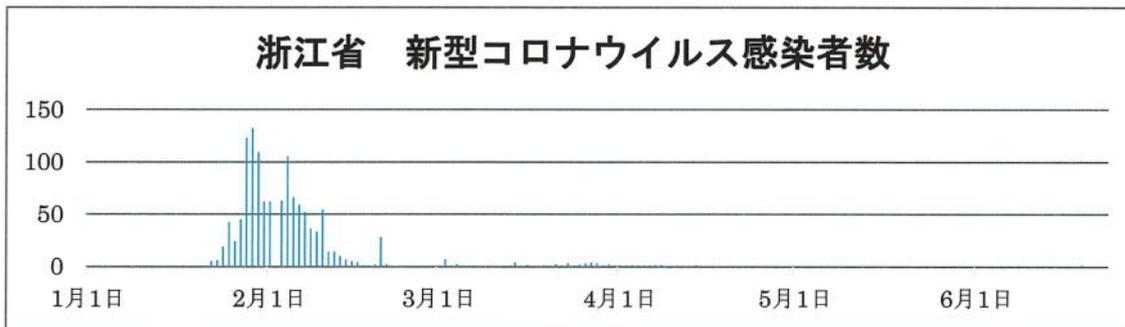
新型コロナウイルス感染拡大は、日本と中国、静岡県と浙江省に、交流事業の中止・延期・縮小などに追い込み、SARSの時とは比べられないほど、甚大な影響をもたらしました。世界的にはまだ拡大傾向にありますが、中国はほぼ封じ込み、日本も終息へ近づいてきています。

こうした状況下において、互いに新型コロナウイルス感染拡大し、緊迫している時期に、マスクなどの支援物資を贈り、互いの友情を紡ぎ、繋ぐ機会になりました。

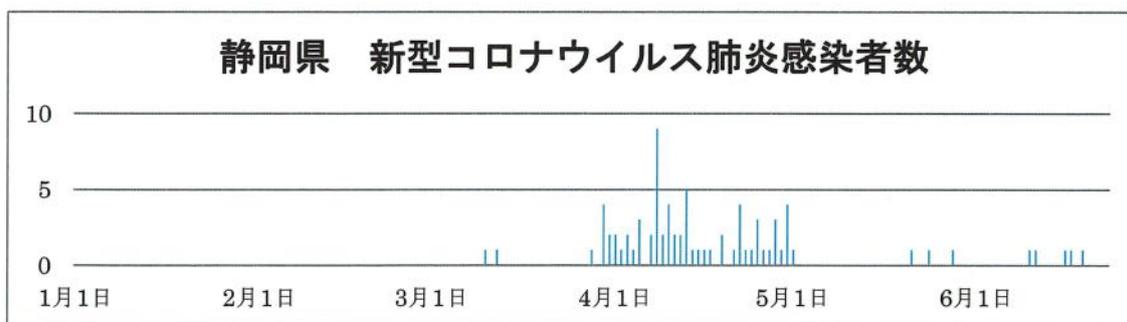
### 新型コロナ感染者数

2020年6月30日

	全世界	日本	静岡	中国	浙江
人口推計	約77億人	1億2593万人	約362万人	約14億人	約5850万人
感染者数	10,239,954	18,593	81	83,531	1,269
回復者数	5,169,421	16,631	77	78,469	1,267
死亡者数	504,617	972	1	4,634	1



浙江省の最初の感染患者確認は、武漢に長い間住んでいる46歳の男性です。1月3日、武漢から温州まで運転して帰郷し、1月4日に発熱症状により病院へ行き、その後、1月17日、温州の指定病院で隔離治療となり、指定病院は中国疾控中心に検体を送り、PCR検査の結果、陽性となり、翌1月21日、浙江省健康衛生委員会は計5名の感染者、いずれも武漢との関係があることを公表しました。温州市など一部都市に封鎖措置をとり、1月30日の感染者数139人をピークに減少し、2月22日には省内発生0となり、その後省外・国外からの流入発生がありましたが、現時点では発生0が続いています。



静岡県の最初の感染患者確認は、2月20日、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」下船した60歳の男性（静岡市在住）です。自宅に帰宅した際は、発熱等の症状はなかったが、その後、軽い咳、喉の違和感があり、2月28日、市環境保健研究所によるPCR検査の結果、「陽性」が確認されました。その後、県域内では4月以降、毎日数例確認され、6月29日、西部で70代の男性が81例目となっています。

## 時系列でみる往来支援物資（マスク、医療用防護服など）

2月～3月

◆静岡県から浙江省へ

防護服セット301セット、マスク31,200枚

◆県立総合病院から浙江人民病院と浙江大学医学院附属邵逸夫医院へ

サージカルマスク4万枚、手術用ガウン450着



◆県内各市から姉妹都市へ

浜松市→杭州市（防護服356着）等、富士宮市→紹興市（マスク2万枚）、三島市→麗水市（防護服100着）、富士市→嘉興市（マスク1万枚）、小山町→海寧市（マスク6,000枚）など

3月～5月

◆浙江省から静岡県へ

医療用マスク3万3200枚、一般用マスク2万枚、医療用防護服2千着、隔離服5千着、保護ゴーグル215個が届く

◆浙江省の医療機関（浙江省人民医院、浙江大学医学院附属邵逸夫医院、浙江中医药大学附属第二医院、浙江大学医学院附属儿童医院）から県立総合病院へ

手術用マスクやガウン、防護服計約5万点が届く



◆中国の姉妹都市から各市へ

湖州市→島田市（マスク3万枚、防疫服300着）、麗水市→三島市（マスク45,000枚、防護服100着）、海寧市→小山町（マスク2万500枚）など

## 日中間の往来に依然支障

・日中路線、7月末で再開予定なし

中国民用航空局（CAAC）による、中国への国際線の乗り入れ制限を受け、日本と中国を結ぶ航空会社8社は、運航ダイヤを公表し、3月29日以降、原則、①中国の国内航空会社については、各社、各国1路線、週1往復まで、②外国の航空会社については、各社、中国との航空路線を1路線、週1往復までに限定しています。現時点、7月末までは再開の予定はなく、静岡空港の中国便も全便7月末まで運休、欠航が決まっています。

・日中間の人的往来に制限

中国→日本 [6/23現在] 過去14日以内に滞在していた外国人は入国拒否。

日本→中国 [6/23現在] ①15日以内の滞在について査証を免除する措置を全て一時的に停止。②3/28より、それまでに発行された有効な訪中査証及び居留許可証による外国人の入国を暫定的に停止。今後新たに取得する査証での入国は可能。③APACビジネス・トラベル・カードを有する外国人の入国も暫定的に停止。外交、公務、礼遇、C（乗務員）の査証を有する者の入国は影響を受けない。

# 交 流 交 往 来

## 2020年度定期総会、書面議決で実施

新型コロナウイルス感染症対策による緊急事態宣言に伴い、当協議会の2020年度定期総会は、会議形式の代替方法として、書面表決による議決を行いました。結果、全議案原案通り可決されました。

### 【2020年度事業計画】

#### 今年度は調整や準備

2年後には日中国交正常化50周年、浙江省との友好交流提携締結40周年を迎えます。本年度は、可決された事業計画に中止・延期・縮小などの影響は致し方ない面もあり、これまで積み上げてきた交流のレベルに戻るため、どのくらいの時間が必要なのか、不透明感は否めませんが、極力最小限になるようにすべく、早期の中国との交流再開、静岡空港の中国便再開を期し、中国の関係機関との緊密な連絡を保って、2年後の周年事業にむけた調整や準備を始める年として、位置づけています。

#### 1. 人事文化交流事業

- (1) 中国研修生の受入れ
- (2) 静岡県日中友好協議会代表団派遣
- (3) 静岡県下市町における交流促進
- (4) 分野別の交流促進
- (5) 各界各層間の交流促進
- (6) 各友好訪中団の派遣及び派遣に対する協力
- (7) 各友好訪日団の受入れ及び受入れに対する協力
- (8) その他必要に応じた事業への取り組みや協力を通じて、人事・文化交流を促進

#### 2. 産業・経済・技術交流事業

- (1) 静岡県・浙江省経済交流促進機構への取り組み
- (2) 浙江省等技能実習生の受入れ
- (3) セミナー等の開催
- (4) 農業分野の交流促進
- (5) 専門別交流の促進
- (6) 関係機関との関係強化
- (7) 静岡県日中経済協同組合への支援と貿易取引の促進

#### 3. 情報交流事業

- (1) 浙江省、湖北省及び山東省をはじめとした中国の定期便就航先都市等との連絡・調査及び情報
- (2) 機関誌・情報ニュースの発行
- (3) 日中交流に必要な各分野の資料・情報の収集、提供、普及

# トレンドNOW（潮流奔騰）

## 百花繚乱の「雲会議」（オンライン会議）

日本では新型コロナウイルス感染拡大を受け、リモートワークが導入され、オンライン会議ツール「ZOOM」などが普及しつつあるが、中国においても同様にオンライン会議ツール（DingTalk、VooV Meeting、Xiaoyu Yilian など、日本でもダウンロード可）を使用しているミーティングはスタンダードになりつつあり、雲会議（クラウドミーティング）だけではなく、「雲招商」（クラウド・企業誘致）、「雲契約」、「雲提案」、「雲投票」、「雲法廷」、「雲研修」、「雲面接」といった様々なクラウドミーティング「雲」化の日常業務が進化しています。

### 「DingTalk Lite」、アリババ系



「DingTalk Lite」は、「DingTalk（釘釘）」のグローバル版のワンプラットフォームで実現するクラウド系オフィスソリューション。

主な機能は、ライブ配信：1,000人の参加者を1つのライブ配信グループに招待し、同時にその配信を複数のグループで共有して実施することで、視聴者数を最大化できる。ビデオ会議：地域に関係なく最大302人が参加できるビデオ会議の開催が可能で、画面共有やドライブ上でのファイル共有、また、美颜効果機能である「ビューティー・モード」や録画機能も搭載。グループチャット機能：最大1,000人までが参加可能で、全員または特定の参加者に通知を送信、14カ国語での双方向翻訳を可能にするAI翻訳機能により言語の壁を超えて自由にコミュニケーションをとることができます。

### 「VooV Meeting」、テンセント系



テンセント（騰訊）によるビデオ会議プラットフォーム「騰訊会議（Tencent Meeting）」の国際版「VooV Meeting」が日本を含め世界100以上の国や地域にリリースされています。「VooV Meeting」は、画面がシンプルな仕様で操作が簡単になっており、オンライン上でのドキュメントコラボレーション、ミニプログラムからの参加、高画質及びスムーズな会議とその管理やアクセス権の制御、画面共有などの機能をすべて使用でき、いつでも、どこでも、直ぐに会議に参加できます。

### 「Xiaoyu Yilian」、小魚易連



「Xiaoyu Yilian（小魚易連）」は、クラウドコンピューティングを使用したマルチパーティビデオ会議及びビデオビジネスアプリケーション。「クラウド+ターミナル」オーディオ及びビデオソリューションプロバイダーであり、革新的なフルシーンビデオハードウェアターミナルを備え、政府及び企業のプロフェッショナルビデオ会議及びアプリケーションビジネスニーズをサポートしています。

## 寧波の桂花、樟木

寧波大学外国語学院外籍教師  
静岡県立大学グローバル地域センター客員講師  
(静岡県日中友好協議会 交流推進員)

横井香織



中国は広大で、地域によって自然環境も食文化も言葉も異なります。浙江省は中国の南方に位置しており、水が豊かでたくさんの樹木や花であふれています。静岡とは少し趣の違う寧波の自然の美しい景色や風物を紹介します。

日本で花といえば、桜や梅を思い浮かべる人が多いでしょうか。寧波にも桜公園があり、春には多くの人々が訪れます。寧波人の同僚、宋姍姍先生に「花といえば、桜ですか」と聞いたところ、「それは桂花ですね」と返ってきました。桂花（日本名はモクセイ）には丹桂、金桂、銀桂、四季桂の4種類があり、どれも甘い香りを漂わせます。寧波市内の保国寺には、なんと3000株もの桂花があり、寧波の人々を楽しませています。



【金桂（桂花の一種）】

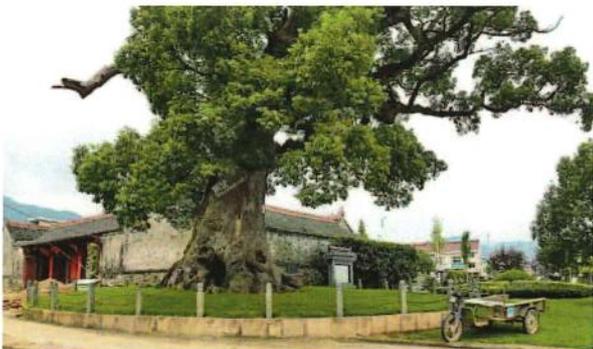
寧波の人達は、桂花を見て楽しむだけではありません。桂花茶、糖桂花（桂花ジャム）、桂花酒、桂花糕（餅）、桂花山藥（ヤマイモ）等、桂花の花を使ったグルメを味わいますし、豚の角煮に桂花の花を入れたり、寧波のスイーツ、湯圓（タンユアン）にも花びらを散りばめたりします。見てよし、食べてよし、香りもよし。甘く香る桂花は、寧波人の心に深くしみいる特別な存在なのです。



【寧波のスイーツ、湯圓】

もう一つは、寧波のあちこちに見られる樹木に樟木（クスノキ）があります。1984年9月に、寧波市の市樹に認定されました。樟木は常緑樹ですが、新緑の季節になると、前年の葉が赤色になって落ちます。花は黄緑色で、緑の実が熟すると黒紫色になります。樟木の精油は樟脳で、日本でも防虫剤として古くから使われてきました。

寧波で最も古い樟木、樹齢1200～1500年の樟木が寧波の寧海前童竹林村にあります。私が勤務する寧波大学の構内にも樟木が生い茂っています。この木が好きでたまらないという鳥がいます。白鷺です。毎年、春



【寧海前童竹林村の樟木】

になると群れでやってきて樟木に巣を作り、卵を産んで子育てを始めます。白鷺にはどうやらお気に入りの木があるらしく、1本の木に10個以上の巣が作られ、20羽以上の白鷺が見られることがあります。そのため、樟木の下を歩くときは要注意！晴れていても、傘は必需品です。白鷺は、樟木の下を歩く人間に容赦なくフンをまき散らすからです。群れでやってきた白鷺は、樟木の実や大学の南に流れる甬江の小魚をえさに子育てをして、秋には再び群れで飛び立っていきます。樟木と白鷺は、寧波大学の春から秋にかけて見られる『風物詩』になっています。

# 中国黄酒博物館

酒造原産地の浙江省紹興市には、2007年10月29日にオープンした、日本でもファンが多い「紹興酒」の歴史や醸造工程などを紹介する『中国黄酒博物館』があります。



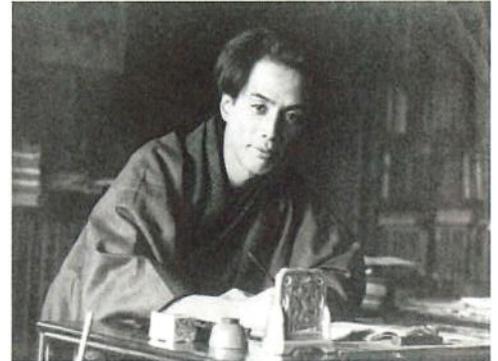
中国の代表的な黄酒の中で、紹興酒はその最として、紹興と言えば「紹興酒」で全国に名を馳せ、醸造技術も国家レベルの無形文化遺産保護となっています。しかしながら、中国では、ビールや蒸留酒「白酒」の人気が高く、紹興酒をはじめとする醸造酒「黄酒」の販売量はアルコール飲料全体の約5%にとどまっているとされ、このため、地元では、紹興に多くの観光客らを引き込み、紹興酒の知名度を一層高め、消費拡大につなげたい意向が博物館に反映されています。

『中国黄酒博物館』と名付けられた博物館は、国内初の黄酒文化と産業文化をテーマにした専門博物館であり、建築面積16,000平方メートル、展示ホールの延床面積は10,000平方メートル、酒史フロア、酒芸フロア、3Dシアター、地下酒蔵などを設け、醸造酒の悠久の歴史と文化のエッセンスを展示し、紹興酒の歴史を紹介するコーナーには、古代の酒器や資料写真、紹興酒を愛飲したとされる紹興生まれの文豪・魯迅に関する展示もあり、立体映像で紹興酒の醸造工程を再現するコーナーが設けられている他、官女に扮した女性が紹興酒の正しい飲み方を披露するショーもあり、紹興酒の試飲をすることもできます。

## 作家が見た中国へタイムトリップ

### 芥川龍之介、西湖の旅

明治の文豪・芥川龍之介は、子供の頃より『西遊記』、『水滸伝』などの中国古典文学を愛読し、中国古典から培った素養により、悠久の歴史を持つ中国大陸の風景に憧れを持っていました。1921年、大阪毎日新聞の海外視察員として、中国へ約3ヶ月派遣され、3月20日に上海に上陸し、上海・杭州・南京・九江・漢口・長沙・洛陽・大同・天津などを遍歴し、7月上旬に帰国し、後に見聞記「中国游记」（中国紀行）を書き記しています。



芥川の目に映った現実の中国は内憂外患であり、芥川にとって、憧れの中国認識を打ち砕くものでした。思い寄せていた中国風景になかなか出会えず、却って中国伝統文化の没落な光景や、場違いのような西洋化された風景をよく見かけたため、自国の文化を疎かにして、西洋の合理主義を追求することに対して嘆かわしいと記しています。しかしながら、1920年代～30年代は、上海は極東最大の都市となり、東洋の魔都とも呼ばれ、人々の憧れの街となり、人を魅了していった頃です。

芥川は、5月2日から2泊3日、杭州を訪問しています。当時は現在と違い、約5時間かけて列車に乗り、着いたのは夕方7時頃です。宿泊ホテルは、西湖の畔にある今日も現存営業し、オールドホテルとして知られている「新新飯店」です。場所は杭州ジャングリラホテルの近くにあり、良い位置に立地しています。

芥川は、杭州駅から人力車でホテルまで向い、車中から見た最初の西湖の風景は、今日のような賑わいはなく、「人も犬もなく、寂しい」と記し、期待したほどもないのがっかりしています。しかしながら、ホテル到着後に西湖周辺を散策し、夜であったこと、月明かりに照らされた西湖をみることでできたからか、「西湖、私はこの瞬間、如何にも西湖らしい心持ちになった。茫茫と煙った水の上には、雲の中空から、幅の狭い月光が流れている。いつまでも西湖をみいていた」と情緒豊かに表現し、感動しています。



芥川が逗留した西湖湖畔の「新新飯店」

翌日は、画舫（装飾された船）に乗って西湖巡りを行い、断桥、平湖秋月、雷峰塔、放鶴亭のほか、岳飛廟、秋謹の墓、靈隠寺などを訪れ、西湖旅情に暮りました。

発行所：静岡県日中友好協議会  
発行人：栗原 績

静岡市葵区追手町44-1（静岡県産業経済会館1F）  
TEL (054) 255-8111